

大御堂観音寺

大御堂観音寺は、1300 年以上前の天皇の勅命による創建とされています。最も栄えた折には、33 の壮麗な伽藍を誇りました。現存するのは、過去にあったものの一部として本堂を残すのみとなっています。日本の国宝として登録されている十一面観音は 7 体あるが、ここに観音像はそのうちの一つで、御本尊として知られています。四方を自然に囲まれ、春には満開の桜と菜の花、秋には紅葉を楽しむことができます。

歴史

8 世紀には 33 もの伽藍を誇り栄えました。744 年にはご本尊として観音が安置され、その後、数世紀の間に幾度となく火事に見舞われましたが、当時日本の政治を牛耳っていた豪族・藤原氏によって再建されました。しかし、幾度となく火災に見舞われ、1437 年の火事では、諸堂 13、僧坊 20 余りを数えた建物のほとんどが失われ、大御堂だけが再建され現在に至っています。なお、この石碑は五重塔の一部だったと考えられています。寺院は数世紀にわたって幾度となく再建されたが、これまで、大きさを創建時の規模を得るまでには至っていません。現在の本堂は 1953 年に復元されたものです。

宝物と芸術品

大御堂観音寺の御本尊は十一面観音です。この観音はもともと本寺院の最初期より存在したとされ、日本国宝として登録されている 7 体の十一面観音の一つです。とりわけ、その表情の優しげな女性性が特徴とされています。また、本堂には「絵心経」と呼ばれる興味深い絵図があります。文字が読めない人ために文字とともに書かれたお経の絵のことで、それは江戸時代の言葉遊びの中に見て取ることができます。